

パネル文学展のご案内

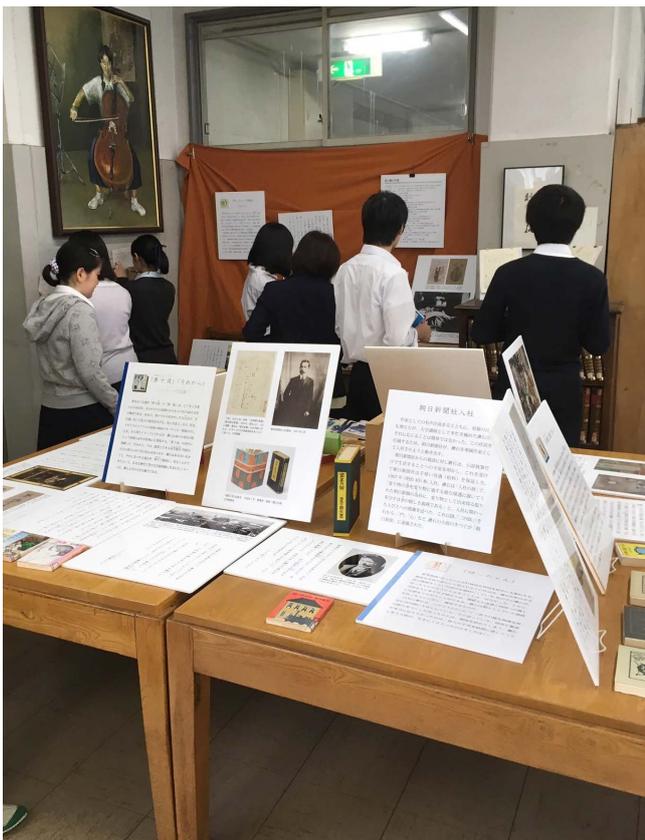
神奈川近代文学館では、学校図書館や文化祭での展示や授業のために、6種類のパネル文学展を用意しています。いずれも過去に当館で開催した展覧会を20～50点のパネル文学展に再構成したものです。2008年（平成20）に開始したパネル文学展の観覧者は累計339校、約28万人（2025.3現在）を数えています。貸し出しをご希望の方は、メールフォームまたはFAXでお申し込み下さい。（詳細は本案内2ページ目の【申込方法】を、各パネル展の全体見本はページ末尾をご覧ください。）

図書室や文化祭で
文学展を開いてみませんか？
データ版はパワーポイントや
オンライン授業にも！
公共図書館等でもご利用ください。

〈パネル文学展メニュー〉

- ①夏目漱石展（データ版あり）
- ②中島敦展（データ版あり）
- ③森鷗外展
- ④太宰治展
- ⑤与謝野晶子展
- ⑥佐藤さとる『コロボックル物語』展

展示風景 2018年パネル文学展「夏目漱石」を開催した横須賀高校の展示風景とアンケート



原稿の表現とかを直したあとが
たくさんあって、こういうのは
初めて見たけど、おもしろい
と思った。－生徒

パネル展を観覧して、漱石の作
品は漱石の人生の影響を大きく
受けていたことが分かりまし
た。－生徒

順番に観ていくと漱石のエピソ
ードや作品のあらましが概ね理解
できるようになっており、コンパ
クトですが内容の濃いパネルであ
ると思いました。人気のコミック
の絵もあり、生徒たちの導入とし
て良いですね。－教員

作品は読んだことがありまし
たが、作者の性格や人生を知った
上でもう一度読んでみたら、また
違ったとらえ方ができそうです。
こういった展示は大切だなと感じ
ました。－保護者



【貸出について】

- (貸出期間) 1か月を目途に、協議のうえ決定。
- (貸出料) 無料。
- (パネル点数) 約30～50点(展示スペース等に応じて展示点数を減らすこともできます。)
- (運搬) 宅配便、公用車など展示パネルの運搬にかかる経費は利用者が負担。
宅配便の概算額＝往復約5,000円。
データ版(夏目漱石、中島敦のみ)はDVD-R(要返却)を送付します。
- (報告) 返却時に、観覧者(利用者)数などの報告が必要です。会場スナップ写真や生徒さんの感想等もありましたら添えてください。
- (その他)
- *展示会は開催者と県立神奈川近代文学館・公益財団法人神奈川文学振興会との共催とする。
 - *関連図書などによる補足展示などアレンジ可。
 - *文学館紹介パネル、ポスター等の掲示にご協力ください。
 - *肖像、資料のパネル展示に必要な著作権者等の許諾手続きは文学館が処理済です。
 - *数に限りがあるため、予定が決まりましたらお早めにお申込ください。

【申込方法】

下記内容をFAXでお送りいただくか、神奈川近代文学館ホームページ内「パネル文学展」に記載の
[メールフォーム](https://kanabun-or-jp.prm-ssl.jp/paneruten.html) (https://kanabun-or-jp.prm-ssl.jp/paneruten.html) からお申込下さい。
折り返し御連絡し、スケジュールなどについて打ち合わせを行います。



また、御不明の点は随時下記までお問い合わせ下さい。

県立神奈川近代文学館 担当:総務課・加藤

〒231-0862 横浜市中区山手町110 TEL 045-622-6666 / Fax045-623-4841 / event@kanabun.or.jp

神奈川近代文学館 パネル文学展利用希望 FAX 送信用紙

学校名など団体名:

御希望のパネル文学展名:

御希望の利用期間と運搬方法:

利用の目的(例・文化祭展示、高3国語科オンライン授業):

展示会場: ○をお付け下さい。

教室 図書館 常設の展示スペース その他()

御担当者のお名前・職名:

電話番号:

メールアドレス:

その他:御質問など

3. 森鷗外展

2009年（平成21）に開催した「森鷗外展—近代の扉をひらく」のダイジェスト版。鷗外の肖像写真をはじめ、「舞姫」原稿、ドイツ留学ゆかりの品、子どもたちの写真、遺言書、著書初版本などで近代文学の世界を拓いた鷗外の生涯と作品世界を紹介します。



(森鷗外展開催実績)

2009～2024年度：31校、2機関／2024年度開催：県立神奈川総合産業高等学校

4. 太宰治展

2014年（平成26）春に開催した「太宰治展—語りかける言葉—」のダイジェスト版。没後60年以上の歳月を経てなお、多くの人々を惹きつける作品世界と、名作を生み出した苦闘の生涯を、肖像写真や原稿を通して紹介します。

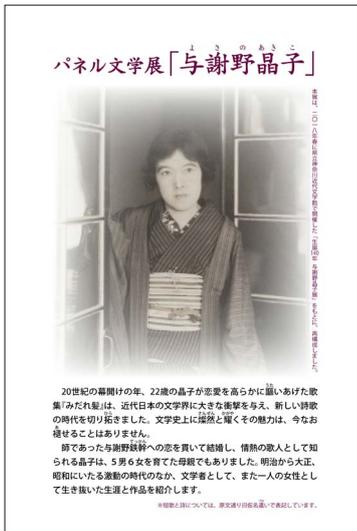


(太宰治展開催実績)

2014～2024年度：51校、1機関／2024年度開催：横浜市立岡津中学校、県立永谷高等学校、県立横浜氷取沢高等学校、二宮町立二宮中学校、横浜市立新羽中学校、県立横浜修悠館高等学校、県立神奈川総合産業高等学校、県立愛川高等学校、横浜女学院中学校高等学校、横浜雙葉中学高等学校

5. 与謝野晶子展

2018年春、生誕140年を記念して開催した「与謝野晶子展ーこよひ逢ふ人みなうつくしき」のダイジェスト版。第一歌集『みだれ髪』で新しい詩歌の時代を築き上げ、幅広いジャンルで活躍した情熱的な生涯を、草稿、書簡、短冊、遺品、著書初版本などで紹介します。

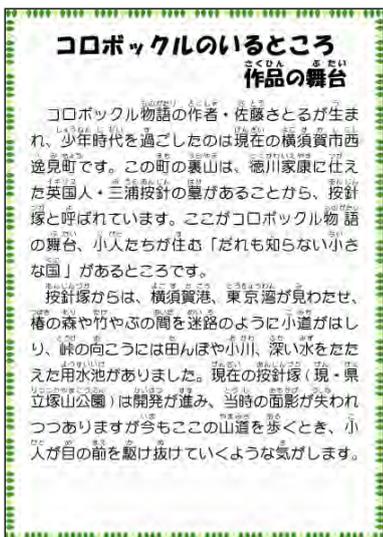


(与謝野晶子展開催実績)

2018～2024年度：15校／2024年度開催：県立川崎高等学校、県立西湘高等学校、東京純心女子高等学校、フェリス女学院高等学校

6. 佐藤さとる「コロボックル物語」展

2007年夏開催の「佐藤さとる『コロボックル物語』展」をもとに製作。日本を代表する児童文学作家・佐藤さとるの生涯と「コロボックル物語」誕生の背景を、肖像写真や原稿などの資料で親しみやすく紹介しています。全体の内容についてはお問合せください。



(佐藤さとる展開催実績)

2013～2024年度：23校、3機関／2021～2024年度開催：横浜富士見丘学園、横浜中央図書館、横浜女学院中学校高等学校

※パネル展1～5については、ご希望があれば「文豪ストレイドッグス」パネルも合わせて提供。その他ワークシートもあります。

パネル文学展「中島敦」 一例（基本構成）

用途にあわせて、抜粋してお使いいただくことも可能です。

中島敦展

Exhibit of Mitsuru Nakajima



中島敦(1909～1942)は、中学のころから作家になりたいという夢を抱いていました。東京にやってきました。1926年(昭和1)に、大学を卒業した中島敦は、横浜高等女子学校・横浜女子高等学校の教師になりました。多岐にわたる活動、1931年、32歳のときに雑誌『文学界』の編集長に就任された中島敦は、1934年(昭和9)に小説『文藝界』の編集長に就任し、1935年(昭和10)に『文芸界』の編集長に就任し、3月に辞職し、中島敦は作家として活動します。1942年12月、東京で病気で亡くなりました。

旅のはじまり—幼少期—

中島敦は、1909年(明治42)5月5日、甲府で文筆家としての父・大久保と、母・アツ子との間に生まれました。幼少期は甲府で育ちました。甲府で育った中島敦は、幼少期から文筆家としての才能を発揮しました。幼少期から文筆家としての才能を発揮しました。幼少期から文筆家としての才能を発揮しました。

「巡査の居る風景」 —高小・中学時代—

中島敦は、小中学校の頃から文筆活動を始め、雑誌『少年』などに小説を発表しました。1926年(昭和1)に、横浜高等女子学校に入学し、文筆活動を続けました。1926年(昭和1)に、横浜高等女子学校に入学し、文筆活動を続けました。

自己確認の旅—高、大学時代—

1930年(昭和5)1月、中島敦は横浜高等女子学校に入学しました。大学時代、中島敦は文筆活動を続け、雑誌『文学界』などに小説を発表しました。1930年(昭和5)1月、中島敦は横浜高等女子学校に入学しました。

「斗南先生」

高小時代の、中島敦は、斗南先生(斗南先生)の文章に感銘を受けました。斗南先生の文章は、中島敦の文筆活動に大きな影響を与えました。斗南先生の文章は、中島敦の文筆活動に大きな影響を与えました。

寄港地・横浜—横浜高等女子学校—

1931年(昭和6)4月、中島敦は横浜高等女子学校に入学しました。横浜高等女子学校で、中島敦は文筆活動を続け、雑誌『文学界』などに小説を発表しました。1931年(昭和6)4月、中島敦は横浜高等女子学校に入学しました。

「かめれおん日記」

横浜の女子学校で「かめれおん日記」の執筆を始め、この日記が中島敦の文筆活動のきっかけとなりました。『かめれおん日記』は、中島敦の文筆活動のきっかけとなりました。

横浜の日常

中島敦が1931年(昭和6)から1942年(昭和17)までの日常を振り返るパネルです。横浜の日常、中島敦の生活の様子、文筆活動の様子などが紹介されています。中島敦が1931年(昭和6)から1942年(昭和17)までの日常を振り返るパネルです。

中島敦横浜MAP

中島敦が横浜で過ごした場所や、文筆活動の拠点を示した地図です。中島敦が横浜で過ごした場所や、文筆活動の拠点を示した地図です。

託した原稿

中島敦が生前に託した原稿の紹介。『巡査の居る風景』、『斗南先生』などの原稿が紹介されています。中島敦が生前に託した原稿の紹介。

回復への旅—南洋—

1941年(昭和16)1月、中島敦は南洋へ出立しました。南洋での生活、中島敦の心境などが紹介されています。1941年(昭和16)1月、中島敦は南洋へ出立しました。

教科書編纂の仕事

中島敦が教科書編纂の仕事に携わった経緯や、その仕事の内容が紹介されています。中島敦が教科書編纂の仕事に携わった経緯や、その仕事の内容が紹介されています。

家族への手紙①

中島敦が家族に宛てた手紙の紹介。家族への思いや、生活の様子などが紹介されています。中島敦が家族に宛てた手紙の紹介。

家族への手紙②

中島敦が家族に宛てた手紙の紹介。家族への思いや、生活の様子などが紹介されています。中島敦が家族に宛てた手紙の紹介。

託した原稿のゆくえ

中島敦が生前に託した原稿の行方や、その原稿がどのように扱われたかが紹介されています。中島敦が生前に託した原稿の行方や、その原稿がどのように扱われたかが紹介されています。

「山月記」

中島敦の代表作『山月記』の紹介。作品の背景や、中島敦の創作意図などが紹介されています。中島敦の代表作『山月記』の紹介。

「文学稿」

中島敦の文学活動の紹介。小説、エッセイ、随筆などの作品が紹介されています。中島敦の文学活動の紹介。

「光と風と夢」

中島敦の代表作『光と風と夢』の紹介。作品の背景や、中島敦の創作意図などが紹介されています。中島敦の代表作『光と風と夢』の紹介。

「わが西遊記」

中島敦の代表作『わが西遊記』の紹介。作品の背景や、中島敦の創作意図などが紹介されています。中島敦の代表作『わが西遊記』の紹介。

「南島譚」

中島敦の代表作『南島譚』の紹介。作品の背景や、中島敦の創作意図などが紹介されています。中島敦の代表作『南島譚』の紹介。

旅の終わり—トリア(現) ツツラ

中島敦の晩年や、旅の終わりが紹介されています。中島敦の晩年や、旅の終わりが紹介されています。

「名人伝」

中島敦の代表作『名人伝』の紹介。作品の背景や、中島敦の創作意図などが紹介されています。中島敦の代表作『名人伝』の紹介。

「李陵・司馬遷」

中島敦の代表作『李陵・司馬遷』の紹介。作品の背景や、中島敦の創作意図などが紹介されています。中島敦の代表作『李陵・司馬遷』の紹介。

I. 教科書への採用

中島敦の作品が教科書に採用された経緯や、その経緯が紹介されています。中島敦の作品が教科書に採用された経緯や、その経緯が紹介されています。

II. 「文豪ストイックズ」

中島敦が「文豪ストイックズ」に採用された経緯や、その経緯が紹介されています。中島敦が「文豪ストイックズ」に採用された経緯や、その経緯が紹介されています。

パネル文学展「佐藤さとる『コロボックル物語』」 一例（基本構成）

用途にあわせて、抜粋してお使いいただくことも可能です。

コロボックルってなんのこと？

日本には、昔から二つの小人の話が伝わっています。アイヌ民族に伝わるコロボックルと、古事記に出てくる少彦命の伝説です。コロボックルと少彦命には、カガイモという実のさやを舟にするなど、共通点があって、もとは同じ小人の一族だった可能性があります。

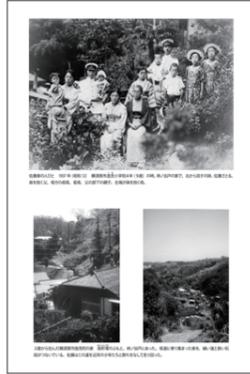
コロボックル物語に登場する小人は、地元の人たちには「こぼしま」と呼ばれ、先相は「スクナヒコサマ」、別名・コロボウシとコロボウチともいわれています。アイヌ伝説のコロボックルや少彦命に関連する、大昔から日本に住む小人の子孫であることはまちがひありません。身長は約3センチ、あまりにすばしっこいで人間の目にとまらず、話しているのは日本語ですが、早口すぎて、みつつの人には「ルルルル……」としか聞こえません。



佐藤さとるの少年時代

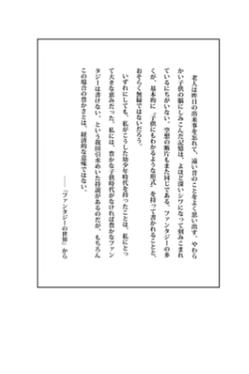
佐藤さとるは1928年（昭和3）2月13日、横須賀市逸見町西谷戸の椿ノ谷戸に誕生しました。二人の姉は双子、後に弟と妹が生まれています。父は横浜海軍の機関兵でしたが油絵がうまう、短歌を読み、母は、姉たちが生まれるまで小学校の先生をしていました。わんぱくで、友だちと谷あいの町や設計塚の野山を駆け回り、一方では、母が描えてくれた童話を読んで、いるような空想をめぐることも好きで少年時代です。

後年、佐藤さとるは、豊かな自然の中で友だちや家族と過ごした少年時代について「大昔の思い出」と語り、この幸せな日々は多くの作品の源泉となっています。



「佐藤さとるの少年時代」

佐藤さとるの少年時代は、豊かな自然の中で友だちや家族と過ごした幸せな日々が、多くの作品の源泉となっています。



戦争の中で

小学校5年の初夏、思い入れ設計塚をなれて横浜市戸塚に引っ越しました。1940年（昭和15）、横浜三中（現・横浜横浜線ヶ丘高等学校）に入学。翌年太平洋戦争が始まり、父・完一はミッドウェイ海戦で戦死してしまいました。学校生活も軍事教練に明け暮れましたが、その合間に図書館（現・横浜市中央図書館）で多くの本を読み通り、自分が最も好きなのは童話で、それを自分で書きたいと、強く思うようになっていきます。

1945年3月、勤労動員先の防空壕で卒業証書を受け取って間もなく、肺結核の診断を受け、家族と共に北海道の旭川に疎開。ここで終戦を迎えます。



「戦争の中で」

戦争の中で、佐藤さとるは多くの困難を経験しましたが、それでも書くことを止めず、童話の世界に逃げ込みました。

童話を書き始める

終戦後、父亡き後の家族を支えるため、療養を中止して働き始めます。1946年（昭和21）春、疎開先から横浜に戻り、働きながら関東学院工業専門学校で建築を学びました。そのころ、児童文学の世界では新しい時代を担う子供たちの心を育てようとする「赤とんぼ」「銀河」などの童話雑誌が次々に創刊されました。そうした雑誌のひとつ「童話」に投稿した「大男と小人」が採用され、これをきっかけに児童文学者・後藤 福根や平塚 武二に教えを受け、本格的に童話を書くようになります。同じように童話作家を目指す長崎源之助、いぬい・とみこ、神戸淳吉とも知り合い、この仲間が1950年、同人誌「豆の木」を創刊しました。



「コロボックル物語」の誕生

戦後もなく書いた童話「失くした帽子」と「浮のひら島の物語」には、クリ・クルという名前前の小人が登場します。このころから佐藤さとるは、小人の物語を書きたいと思っていたのです。長い時がらげるとともに集まっていた友人の小人の物語を。

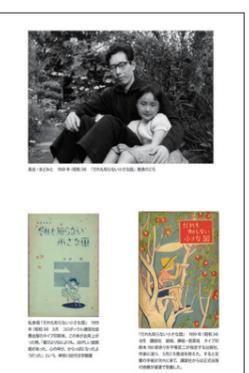
1950年（昭和25）には、同人誌「豆の木」に「井戸のある谷間」を発表しました。設計塚を舞台に二人の若者を描いたこの短編には、戦争をくぐり抜けても変わらない故郷の風景、時を経ても輝きを失わない幼年時代への懐慕があらわれています。これらの作品に認められた思いから、故郷の山を久しぶりに訪ねた青年が小人と再会するというストーリーが生まれ、「だれも知らない小さな国」の物語が愛を契り始めます。



「だれも知らない小さな国」の出版

長い時からの空想のかけらが集まってできた小さな物語を、「心の中からとどろいて、静めた頭で組み立て、創造者に似た立場で物語世界を創る」作業が長い間続けられました。「だれも知らない小さな国」は1957年（昭和32）夏にいったん完成しますが、平塚武二に「不満があるならもう一度書き直せ」と言われ、さらに2回書き直されました。翌年春やっと書き上げますが発表する場がなく、佐藤さとるは「せめて自分の子どもには読んでもらいたい」と、自費でタイプ印刷の小さな本を作りしました。

娘の誕生日を発行日としたこの本は、講談社の編集者の目に当たり、1959年8月に正式出版。コロボックル物語の第1作が、多くの読者の心へと送り出されました。



村上勉が描くコロボックル

コロボックル物語第3作『だれからあちた小さな人』（1965年（昭和40）講談社刊）の挿絵は、当時22歳の村上勉が描きました。佐藤さとるから「夢を夢のように描かないでほしい」というファンタジーの創作理念をたたきこまれ、空想上の生き物であるコロボックルを絵に描くための試行錯誤が繰り返されました。「身長は3センチ5ミリ、目にもまらぬ速さで走り、ジャンプする。イメージの元は蜂」という、佐藤さとるの設定を発展させ、強烈なジャンプ力を持つツオロギを参考に、大きな脚と目を描き、ただの小人ではない、人間とも虫ともつかない神秘的で野性的な生き物コロボックルの絵が完成しました。

村上勉の絵は、「だれも知らない小さな国」が実現し、今もここでコロボックルの生活が賑々と続いているような錯覚をおこさせます。

コロボックルのいるところ 作品の舞台

コロボックル物語の作者・佐藤さとるが生まれ、少年時代を過ごしたのは現在の横須賀市西逸見町です。この町の真山は、漁師家に仕えた英国人・三浦設計の墓があることから、設計塚と呼ばれています。ここがコロボックル物語の舞台、小人たちが住む「だれも知らない小さな国」があるところです。

設計塚からは、横浜港、東京道が見えれば、橋の向こうは田んぼや小川、深い水たたえた用水池がありました。現在の設計塚（現・栗立塚山公園）は開発が進み、当時の面影が失われつつありますが今もこの山道を歩くと、小人が目の前を駆け抜けていくような気がします。



コロボックル物語 出版の歴史

コロボックル物語は1959年（昭和34）講談社より、縁起のよい8月5日に出版されました。

発行年	発行月	発行日	発行元	発行部数	発行価格	発行内容
1959年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『だれも知らない小さな国』
1965年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『だれからあちた小さな人』
1970年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『浮のひら島の物語』
1975年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『失くした帽子』
1980年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『井戸のある谷間』
1985年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『おぼろげな夢』
1990年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『おぼろげな夢』
1995年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『おぼろげな夢』
2000年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『おぼろげな夢』
2005年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『おぼろげな夢』
2010年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『おぼろげな夢』
2015年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『おぼろげな夢』
2020年	8月	5日	講談社	10,000部	100円	『おぼろげな夢』

佐藤さとる略年譜

1928年	2月13日	横須賀市逸見町西谷戸の椿ノ谷戸に誕生。
1940年	9月	横浜三中（現・横浜横浜線ヶ丘高等学校）に入学。
1945年	3月	勤労動員先の防空壕で卒業証書を受け取る。
1946年	春	疎開先から横浜に戻り、関東学院工業専門学校で建築を学ぶ。
1947年	夏	『だれも知らない小さな国』の原稿を同人誌『豆の木』に掲載。
1950年	夏	『井戸のある谷間』を同人誌『豆の木』に掲載。
1957年	夏	『だれも知らない小さな国』の原稿を同人誌『豆の木』に掲載。
1959年	8月5日	『だれも知らない小さな国』が講談社より正式出版。
1965年	8月5日	『だれからあちた小さな人』が講談社より正式出版。
1970年	8月5日	『浮のひら島の物語』が講談社より正式出版。
1975年	8月5日	『失くした帽子』が講談社より正式出版。
1980年	8月5日	『井戸のある谷間』が講談社より正式出版。
1985年	8月5日	『おぼろげな夢』が講談社より正式出版。
1990年	8月5日	『おぼろげな夢』が講談社より正式出版。
1995年	8月5日	『おぼろげな夢』が講談社より正式出版。
2000年	8月5日	『おぼろげな夢』が講談社より正式出版。
2005年	8月5日	『おぼろげな夢』が講談社より正式出版。
2010年	8月5日	『おぼろげな夢』が講談社より正式出版。
2015年	8月5日	『おぼろげな夢』が講談社より正式出版。
2020年	8月5日	『おぼろげな夢』が講談社より正式出版。

コロボックル物語の絵が大好きなまじいジャンクとみゆみのお友だちなど生涯の読者は1000以上に及ぶ。